

## 第2回志摩市総合計画審議会 議事概要

日 時 令和2年7月31日(金)  
10時～12時  
場 所 志摩市役所4階 401会議室

### 出席者(順不同・敬称略)

(1) 審議会委員(16名)

齋藤平(会長)、松井源紀(副会長)、柴原貞治、出口勝美、西尾新、柴原信義、山川範恭、山際定、宮本道則、前田正典、向井英仁、濱口真理子、森田和樹、谷利子、林花奈、晝川紗代子

(2) 事務局(4名) 澤村博也、東桂一、橋本勝弘、米奥宏規

傍聴者…なし

### **【事務局】**

それでは、定刻になりましたので、ただいまから「第2回志摩市総合計画審議会」を開催いたします。本日は、新型コロナ対策のため、ソーシャルディスタンスの確保や室内換気に配慮した形で開催させていただくということで、皆様にはマスク着用のご不便をおかけしますが、ご協力よろしくをお願いいたします。また、本会議につきましては、公開にて開催させていただくとともに、会議録作成のため、録音もさせていただきますので、ご了承いただきますようお願い申し上げます。

さて、今回、第2回の審議会ということで、本来であれば3月末に開催を予定しておりましたところ、新型コロナの影響を受けて開催を見送り、結果的に、第1回会議からちょうど半年が経ってしまいましたが、その間に、委員の変更がありましたので、まずその報告をさせていただきます。お手元の資料1として名簿を配布させていただいておりますので、あわせてご覧いただければと思いますが、今回より、志摩市PTA連合会から、柴原貞治委員にご参加いただくこととなりました。何卒よろしくお願いいたします。また、三重大学から参加いただいております大倉沙江委員が、関東の大学へご異動になったため、委員を辞任されましたこともあわせてご報告します。

早速ではございますが、議事へ入らせていただきたいと思います。

本日の審議会につきましては、15名(※遅参1名)の委員が出席しておりますので、志摩市総合計画条例第11条第3項「委員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。」の半数以上の要件を満たしており、本会議は成立いたします。また、会議の進行につきましては、条例第11条第2項におきまして「会長は、審議会の会議の議長となる。」となっておりますので、条例に基づき、齋藤会長に議事進行をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

### **事項書1. あいさつ**

#### **【齋藤会長】**

おはようございます。会長を務めさせていただいております皇學館大学の齋藤です。コロナで大変な時にお集まりいただきありがとうございます。

ご存知のとおり、総合計画は、まちの経営戦略としての位置づけでありまして、文字通り総合的、計画的に、比較的長期の視野に立った計画となっております。また今回、6月24日に条例を制定して、策定体制も整えられたということです。本審議会では各分野、公募の委員の皆様から、様々なご意見をいただきながら計画について審議をしたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

## **事項書 2. 議事（1）策定作業の状況について**

### **【齋藤会長】**

それでは事項書に沿って進めます。策定作業の状況について、事務局から説明してください。

### **【事務局】**

[事務局から以下の資料を説明]

《資料1 志摩市総合計画審議会委員名簿》

《資料2 志摩市総合計画条例》

《資料3 第2次志摩市総合計画・後期基本計画の策定体制》

《資料4 第2次志摩市総合計画・後期基本計画の策定スケジュール》

《資料5 志摩市のまちづくりに関するアンケート調査報告書（概要版）》

《資料6 総合計画策定に係る若手職員ワークショップ》

《資料7 総合計画策定に係る高校生ヒアリングについて》

《資料8 第2次総合計画・前期基本計画に係る「成果指標」の評価について》

### **【齋藤会長】**

今、策定スケジュール、策定にあたってのアンケート調査、若者の意見を補完するための高校生に対するヒアリング、庁内若手職員ワークショップの意見、それと前期基本計画の成果指標の状況について説明をいただきました。この部分について、ご質問等あればご意見いただきますようお願いいたします。

まず私から一点お聞きします。資料5のアンケート結果14ページと前期基本計画時のアンケート結果について、大体同じような傾向かと思いますが、その中で、必要度が高く満足度が低いものの中で、少し改善したようなものはありますか。これからさらに分析を進められるところであると思いますが。

### **【事務局】**

目に見えるような、ハード事業を含む項目については、前回より評価が上がっている傾向があります。例えばごみ処理場、火葬場、消防署の整備といったものと関連する施策の評価は上がっている傾向にあります。そのほかの項目については、前回とそれほど変わっていないという状況です。

### **【齋藤会長】**

そうすると、他のものについても取り組みを目に見えるものにしていくということが大事ですね。形になって見るとわかりやすいですが、ソフトの面になると、実際には行政側で改善していたと

しても、市民に中身が見えにくいということがあるのかなと思います。

#### 【事務局】

ご意見のとおり、行政側の取り組みや計画策定の中で、もう少し「見える化」を進めさせていただきたいと思います。

#### 【出口委員】

資料5のアンケートの15ページ「人口減少、少子高齢化に対応したまちづくりについて」のことですが、アンケート結果に出ておりますとおり、若者の働く場がないということで、大きく60.8%の方が若者の働く場を求められています。仕事については、資料7の水産高校へのヒアリングの中でも言及されています。

志摩市商工会では、毎年、企業と水産高校、志摩高校の交流を行っております。年々増えており、昨年は21社～22社に参加していただきまして、高校生に対し、サービス業、建設、土木等、志摩市には立派な企業がたくさんあるということを伝えていきます。高校1～2年生に対して、企業の紹介をしっかりと聞いていただいて、その後に、Uターン等で帰ってきて、就職してもらえるように商工会では頑張っております。なんとしても若者の多いまちにしていかなければならないと考えております。

また、平成16年から人口が約1万3千人減少しております。私は磯部町に住んでおりますが、磯部町の集落は26ありまして、過疎化している地区が多くあります。私の娘の住んでいる沓掛には、娘の子ども以外に子どもがいない。以前は1世帯あったのですが、そうなる話し相手もおらず、遊ぶこともできない。遠くて学校に行くのも大変。それで「阿児の中心の鵜方に住みたい」という話になってしまう。こういう若い母親からの意見もあります。では、どうしていくといいのかということを考えていかなければいけないのだと思います。

#### 【齋藤会長】

市内にどういった企業があるかを若者に知ってもらうのは、非常に重要な取り組みだと思います。

#### 【事務局】

若者の仕事のことは以前から大きな問題でありまして、商工会の取り組みの中で、志摩高校、水産高校に企業が出向いて企業紹介をしていただけることは非常にありがたいことです。仮に、市外に出て行っても帰ってこられる、高校卒業後そのまま就職するという機会が多くなることもありますので、市としても商工会と一緒に取り組んでいきたいと思っております。

また、志摩市の中でも人口が減少している地区とそうでない地区がある中で、中心部に移動したいということに関しては、志摩市のまちづくりのあり方に関することですので、5町が合併した中で、5町のまちが継続できることも平行して考えないといけないと思っております。大きな課題として受け止めて、計画に反映していきたいと考えています。

#### 【西尾委員】

商工会長からもお話ありましたが、若い人の仕事の場所のことですが、仕事とは言ってもいろんな業種があって、志摩市にもいろんな業種があります。「PR不足では」ということもありますが、もう少し細かく知りたいと思うのは、今の若い世代である高校生、大学生がどういう職種を望んで

いるのかという部分です。そこを捉える必要があるのではないのでしょうか。IT関係に行きたいといった声が多いのではないのでしょうか。今の経済もV字回復ではなく、K字回復とされています。K字というのは、IT関係は上を向いているけど、そのほかは下を向いているという株価の動きのことですが、そういうこともあって、若者は、そういったIT関係の方を向いているのではないのでしょうか。

また、志摩市の今後のことに関係しますが、「ワーケーション」ということで、国も力を入れておりますけれども、これは自然を生かした観光地である部分と、IT環境を生かした新しい事業です。仕事が無ければ作っていくというのがこれからの時代で、若い世代が起業していくというのもありなんじゃないかなと思います。「若者が何を望んでいるのか」というのをしっかりと分析して見極めないと、時代時代で変わっていきますので、今はそうだとすると、将来は農業や漁業が大事になるかも知れません。そういったことを5年計画の中で考えていく必要があるので、もう少し細かく若い世代の意識を分析してもらえればと思います。

#### 【事務局】

若い世代の方が何を望んでいるのかというところは、計画を策定する中で重要であると考えております。このコロナ禍の中で、東京にいなくてもリモートで仕事ができるとか、意識の変化や技術の革新も出てきております。そういった中で、志摩市に住んでいても都会とのやりとりができることや、先ほどのお話のとおり、ワーケーションということで、志摩市の中において一定期間レジャーを楽しみながら仕事をしてもらうとか、そういった間接的な交流も若い方にはできると思います。そのような新しいことも視野に入れて考慮していきたいと考えております。

#### 【齋藤会長】

今のマッチングの問題と働き方の変化は重要なご意見だと思います。人口集積地のリスクが今回のコロナで明らかになったことに併せて、リモートでできる仕事も多くあるということもわかってきました。その点で、志摩市に住みながらグローバルな仕事も十分実現できるということ、今回みんなが実感したのではないかと考えています。ぜひ、その視点を総合計画に取り入れてもらいたいと思います。

#### 【松井委員】

齋藤会長からもこのコロナ禍の中で問題が浮き彫りになったとお話がありましたけれども、都市部への一極集中が様々な問題を起こしているのは事実だと思います。将来的に過疎になりつつある志摩市であっても、IT環境を重点的に整備すれば、都市部から企業や個人で、ITを使ってリモートでする仕事の方を呼び込むことができる。空き家対策の面からもリノベーションなどを行い、そこを使ってもらって、IT関係やリモートで仕事をする人を呼び込むことができる。すぐにはできなくても、長期計画の中でそういった視点を持っていただいて、進めてもらえればと思います。将来的、5年、10年先を見越して、IT環境の強化も必要ではないかと思います。志摩市のいい環境の中で仕事をしてもらい、志摩市に税金を落とさせていただけるというような施策も必要なのではないのでしょうか。その辺を計画に盛り込んでもらえたらと思います。

#### 【事務局】

人口が減って、企業の求人は多くてもそれに見合う人材がないという人手不足の中では、スマ

ート農業やスマート物流のように、ITを活用する流れになってきています。都市部に集中した人口をこちらへ呼び込むべく、志摩市の自然、食べ物や真珠、漁業資源といった魅力で、環境がよいことのPRをして、ワーケーションで、こちらで何かをしてもらうということもあります。そのためにはIT環境が大事だと思いますので、そういった視点も大事にしていきたいと思っています。

【齋藤会長】

外から見て、志摩市の自然環境が豊かなことは全国的に知られています。その強みを生かした政策にしてもらいたいと思います。

## 事項書 2. 議事 (2) 基本構想の検討について

【齋藤会長】

事項書 (2) 基本構想の検討について説明をお願いします。

【事務局】

[事務局から以下の資料を説明]

《資料 9 第 2 次志摩市総合計画・基本構想 (一部見直し) 素案》

【齋藤会長】

基本的な考え方として、基本構想・基本目標について現行計画を引き継ぐという中で、後期基本計画から新たに海洋プラスチックの問題等も盛り込まれているということです。

重点目標については、前回の 3 つの項目から 5 項目に増やされて、その中では、前回 1 番に掲げられていた『新しい里海』の恵みを市民が生かすまちづくり」として、新しい里海概念が全面的に出されていたのですが、SDGs と絡めて、②「環境・経済・社会の三側面の連携による価値創出」の項目へ含めていくという対応がされています。

それと併せて、重点目標の最初にある「将来にわたって持続可能なまちづくり」というのが、SDGs の考え方であるわけですけれども、平成 30 年度に策定された SDGs 未来都市計画の中でも、「地域の魅力を生かした産業を基礎に、自らの願いを叶える力強さを備えた市民が、つながりあって小さな地域とまちを支えていく」ということが謳われています。そのときに「誰一人取り残さない」という SDGs の考え方と、出口委員の話にあった沓掛地区の少子化といった具体的な問題に落とし込んでいったときに、どういうことが施策として可能なのかということもあわせて考えていけないことかと思っています。

基本構想の一部見直しについて、ご意見いただければと思います。

【西尾委員】

基本構想ですので、大きく変えるということではなく、これで問題ないと思います。ただ、一点だけ、バブルが崩壊してからずっと右肩下がり、ここに来てコロナの問題で、また災害も心配されるといったマイナス要因ばかりなので、希望が持てるようなことも入れてもらいたい。明るい未来が待っているようなことを入れてもらえると、若い人たちにとっても良いのかなと思います。

夢があるような文言も、少し入れてもらえるとうれしいです。

#### 【事務局】

確かに、コロナの懸念がまだまだある中ですが、いつかは収束させて反転攻勢していくというような、そういった視点も大事だと思います。市民の方に明るい希望を持ってもらえるということは重要だと思いますので、検討します。

#### 【晝川委員】

基本構想を読ませていただいて、こんな志摩市であつたらいいな、ということがたくさん盛り込まれているように思いました。子どもを育てる母親として、また3月まで児童クラブで勤めていたのですが、その現状について申し上げたいと思います。先ほどの沓掛のお話の中でありました、子どもがまわりに誰もいないので鶴方へ行こうかなというお気持ちは、ひしひしとわかることで、私の住む国府でも子どもが少なくて、お母さん同士で話していても、「国府が好きで国府で子供を育てたいけれど、幼稚園の集団教育、その後の学校教育を考えると子どもの多い幼稚園に入れざるを得ないよね」という話になります。実際、国府幼稚園は休園になっています。一方、以前勤めていた鶴方の児童クラブは、年々、定員オーバーしている状態です。お子さん1人あたり2㎡という面積基準があるのですが、要望が多い中、何とか工夫して、かなり過密した状態でお預かりしているという現状がありました。私が勤めていたのは民間の児童クラブでしたが、このように、鶴方に対しては子どもの施設の充実が必要であると思いますし、もう一方で「地元で子どもを育てたいけれど無理かな」と思っているお母さんの要望を叶えていただけるようなことをしていただきたいと思います。

#### 【事務局】

市内でも人口の偏りが出てきている中で、そちらへ行かないといけないとか、好きだから地元に行きたいとか、子どもを育てている方は子どものことを考えながらいろんな葛藤をされていると思います。子育て支援、少子化対策に関しては重点的なことをやっていかないとけないということで、地方創生の総合戦略にも位置づけておりますので、しっかりと取り組んでいきたいと思っています。

#### 【齋藤会長】

子育て支援については、特に重点化して第一に目標としてあげられていますので、その視点で計画も策定されると思います。

#### 【林委員】

市民アンケートを見させてもらって思ったことは、「このまま進んでいって、5年後に同様のアンケートをとったときに何か劇的に変わっているのだろうか」ということです。この市民アンケートに高校生の意見が反映されていないということで、高校生にヒアリングされたということで、それも大事なことなのですが、ヒアリング結果を見てみても、自分が高校生のときと意見は何も変わっていないと感じました。お子さんをお持ちの委員の方も、若い人の意見は想像できる範囲ではないかと思っています。これらの意見を施策に反映させたところで、今後、何か変わるとは思えません。5年後に志摩市を他のまちと違うようにするためには、例えば、Uターンしてきて志摩で活躍している人とか、移住してきて活躍している人、若い人が見て「カッコいい」、「いい仕事しているな」と思え

る人など、そういう人たちの意見を聞いてみる。そういう人たちは、今までにない新しい考えを持っていると思うので、そういった意見を反映させていくことが重要だと思います。基本目標や重点目標については、これはこれでよいのですが、今後、それを具体的な計画にするときには、今までの計画にプラスして「今までと違うもの」、「新しいこと」、「全国どこでもやっているようなことでないこと」を何か一つずつ入れていくということで、今後、アンケートの結果が変わっていくことにつながると思います。

#### 【齋藤会長】

U I J ターンの方に対して、志摩市に対する思いとか、何に魅力を感じてやってきたのか、戻ってきたのかという意識調査をしたことはあるのでしょうか。

#### 【事務局】

現在、市民、高校生を対象としてアンケートをやっておりますけれども、移住に関しては、以前、移住者向けのガイドブックを作成したときに、移住者の意見を聞くためにワークショップをやったことはありますが、意見集約まではいっていないという状況です。U ターンの方や移住された方は、志摩市に住みたいと思って来ていただいていると思いますので、うまく意見を集約できる方法がないか検討いたします。

#### 【山川委員】

基本目標の目標1の文中で、「環境に配慮した排水処理の推進」とありますが、きれいな水が環境に配慮しているとは限りません。兵庫県では、「海をきれいにしすぎない」という考え方で排水基準を設けたりしていますので、そういったことも考えていただきたい。的矢湾は閉鎖性の高い水域ですので、排水基準で海の状態がとても変わりやすい。そういったことも含めて計画を考えていただきたい。観光客にとっては「透き通ってきれいな海」かもしれませんが、漁業者から見たら「えさの無い海」です。そういうことも考えていただきたいです。

#### 【事務局】

そういった現場のご意見を吸い上げていかないと、しっかりとした計画にならないと思います。水産や環境の部局と横断する問題であると思います。重要なお意見だと思いますので、基本計画を立てるにあたっては考慮したいと思います。

#### 【森田委員】

自然が豊かということで、アンケート結果にも出ていますが、この自然環境を生かしていく方法として、目標1「自然とともに生きるまちづくり」の中で、例えば、自然を生かしたホスピタリティ、医療関係、A I とか、自然をベースに何かをくっつけたものというように、一つ一つが区切られたものでなく、これとこれを組み合わせたものというのも、考え方としてありなのかなと思いました。

もう一点、目標4「誰もが健康で助け合うまちづくり」ということで、ウィズコロナ、アフターコロナと言われている中で、コロナに罹った人に対する人権問題をどのように解決していくかという課題が浮き彫りになったのかなと思います。志摩市のことというわけではないですが、家に落書きされた、投石されたといった話を聞きました。そういった問題に対応していく、コロナフォローのようなものも計画に加えていただければありがたいと思いました。

### 【事務局】

行政の中の個々の施策の組み合わせというご提案であったと思います。横断的な施策をしていくという中で、コロナであれば、豊かな自然環境で仕事をするといったことなど、組み合わせはたくさんありますので、情報共有をして検討していきたいと思います。

また、コロナに罹患した方の人権への配慮ということで、コロナに罹った方にそういった仕打ちをすることは許されないことだと思います。日ごろから人権啓発はしているところですが、一人ひとりの人権が尊重されるよう、市職員も含め、市民の方への周知啓発をしていかなければならないと考えています。

### 【齋藤会長】

ぜひ啓発を進めていただきたいと思います。また「自粛警察」といった過度な反応をされる方もいて、難しい問題でもあります。みんながお互いを認め合っていける社会を作っていくことが求められていると思います。

### 【前田委員】

先ほどから、施策方針等について前期を後期にどう見直してつなげていくかということで、資料を拝見しておりましたが、私からは、もう一段下げたところから申し上げます。

人口減少が進む中で、今後、市としてどう生き残っていくかということが大事だと思います。先ほどの住環境の問題であれば、国府地域の話もありましたが、津波が来たら浸水してしまうけれども、サーファーが海を求めてやってくる魅力がある。志摩市にはそういった部分がいっぱいあります。それを生かしていく。山川委員からは、地場産業のカキ養殖にはプランクトンが欠かせないという話があって、きれいなものだけではいけないという、相反するものが問題になってくる。志摩市の魅力は何かということを見つめなおしていかないといけないと思います。

人口減少が進む中で、例えば、若者のことであると、出産のことで、未だに志摩病院は婦人科が月・水曜日しか開いていない。それが一週間開いて、そこで出産ができるようになれば、もっと帰ってくる人もあると思います。子育てのことであれば、昔、ともやま公園にフィールドアスレチックがあって、土日になると子どもを遊ばせることをさせていましたが、自然の中で子どもがいきいきと遊べる場がない。あと、過疎化の中で、駅前や各地域の中心部は元気がなく、空き家ばかりになっています。そういったところも、空き家対策で誰もが利用できるような場所を整備して会議やサロンに使えるというような施策をすると地域が元気になる。各地域で、各自治会が頑張って、サロンに取り組んでくれています。また、まちの活性化ということで、農産物の市場を設けてもらったりしています。そのように、地域をどのようにして盛り上げていくかということを社会福祉協議会と自治会で取り組んでいるわけです。高齢者のことであれば、買い物難民になってしまっているということもあります。そこで、まず、志摩市から人が市外へ逃げない魅力作りをしないといけないということと、それと移住の観点で、志島でも海女になってくれる方もありますが、魅力を感じて来てもらえるという部分をどう進めていくかというのを考えないといけない。

また、資源の循環の部分で、例えば、山田エコセンターで不要物を展示して、市民に持って帰ってもらうことで循環させるとか、社会福祉協議会の共同募金で羽毛布団のリサイクルもしておりますが、いろいろと循環をさせることが可能だと思います。

あと、なぜ外から志摩に来てもらえないかということのところについてですが、夕方遅くになると電車の便がないことがあります。電車が宇治山田、鳥羽で止まるので、お客さんから「志摩に来てもこ

んなに待たされる」という声が、昔からあります。やはり、電車の便がよくないと遠くから観光客を誘致するのは難しい。夕方5時から志摩市に来ようとしても、都市部から2〜3時間かかってくるので、それに対応した取り組みが必要だと思います。観光客も含め、遅い時間でも受け入れられるようにしていかないといけない。例えば、会議の場で遅くなったら、おにぎりや味噌汁を出すとか、そういったことをして誘致できないのかという話を近鉄関係の方にしたこともあります。サービスの仕方で来てもらえる人が変わってくるのではないかと思います。

先ほどリモートの話もありましたが、社会福祉協議会は、地域福祉だけでなく、高齢者や障がい者のデイサービスとか、日常生活支援の訪問などをやっています。第一線の仕事なので、リモートではできません。最後の受け皿です。こういった最後の受け皿の人たちがいるということを理解してほしい。そういう場で働く人たちを募集しても集まりません。そういう人たちが、高齢化への対応を担っている。働く人がいないと、施設の増床をしたくてもできないという話につながってくる。

このように細かい施策を積み上げていかないといけない。大きな目標は大事なことだと思いますが、誰もが感じていることだと思います。住民の皆さんと話し合いながら詰めていかないといけないのではないのでしょうか。

風水害の話で言うと、コロナ対応で防災対策も変わってくると思います。こういった部分も今後どうしていくのか。今までであれば避難所に行けばいいということであつたけれども、避難所に行かない対策をするとか、避難所内の仕切りの徹底、入り口でトリアージするとか、本当に住みづらい時代になってきたと思います。今後、市としてどういう対応するのか積み上げていってほしいと思います。

#### 【事務局】

今回の重点目標においては「超高齢化社会への対応」ということも掲げており、また、SDGsの「誰一人取り残さない」という理念の下に基本計画の策定に取り組んでいきますが、その中ではご苦労されている市民の方のことを考えていく必要がありますし、避難所の話のように、コロナによって日常生活が変わっていくのでそれに適応していかないといけないということもあります。計画策定の中で考えていきたいと思います。

#### 【齋藤会長】

ご意見を聞いて、「暮らしの魅力の見える化」が必要であるということを感じました。

また、これが志摩市の施策に必要なかどうかはわかりませんが、伊勢市でも看護師の確保が難しい状況がありまして、田中病院と三重県と皇學館大学での取り組みとして、田中病院がEPAの協定に基づくベトナム人看護師候補者を受けて入れています。看護師として働くためには日本の看護師国家試験に合格しないといけないので、皇學館大学では日本語支援を行っており、現在、田中病院で4名、伊勢赤十字病院で1名が看護師試験に合格して、ベトナムの方が現場で働いています。人手不足が深刻だということは常々感じています。

#### 【向井委員】

素案の内容は具体的で、前期計画に比べてわかりやすくなった印象です。

先ほどから出ているコロナの言葉について、ここに入れるかどうかは別として、せつかく時代に応じた対応ということで、「海洋プラスチックごみ対策」といった言葉も記載してもらっていますので、「新型コロナウイルス対策」または「突発的なウイルス対策」というような言葉を書いておくと、

委員の方々からご意見いただいたことが、後々、細かいところで動けるのではないかと思います。

それと、目標3の「産業が元気なまちづくり」の最後の方に、「情報発信に取り組み」という言葉がさらっと書いてありますが、非常に幅が広くて、その方法については非常に難しいものだと思います。この辺は、いろんな方面の声を聞きながらしっかりとやっていただきたいと思います。

#### 【事務局】

お話いただいたウイルスのほか、大雨災害など、突発的なことで、生活を変えさせるようなことが起こっておりますので、そういう視点も含め施策方針の作りこみを検討したいと思います。また、情報発信については、どこに向けて発信したらよいのかということが重要だと思います。若い人、観光客あるいは農業に従事している人、いろんな分野がありますので、相手に対して、また、その発信方法についてもいろいろなツールがありますので、どれを使ったらいいのかも考えながら取り組んでいきたいと思います。

#### 【西尾委員】

基本構想ですので、全体的なことはこれでいいと思いますが、最近思うことは、人間は欲があるので、「すべてのことが便利であってほしい」、「すべて満たしたい」という気持ちが強いということです。しかし、現実問題としては、お金がなかったり、そういう状況じゃなかったり、我慢をしないといけないことが出てくる。それを考えると、コンパクトシティの話、つまり、まちを小さくして、中心地から5km以内はすべて行き届いているけれども、そこから外へ出るのは不便だからお金持ちでないと無理というような考え方もあります。だけど、実際問題は、先ほどの話のとおり、国府が好き、沓掛が好きということで、そこで住みたいという思いがある。このあたりを考えると、どちらかを選ばないといけないということも起こりうる。両方を満たす新しい政策を考えることが本当は大事なのですが、それができなければどちらかを選ばないといけないことが出てくる。どうしていくのかということを選択する意識を持てるように、子どものころから学校教育で、「自分で考える」ということを学ぶことを考えていく必要があるのかなと思います。今のことで言うと、経済を優先するか生命を優先するかという発想になるのですが、「新しい生活様式」のように、新しいものを作っていくのが、本来のまちづくりだと思います。それが難しい場合、最初は生命が優先でしたけれども、経済も持ち直しましょうということでやっています。優先順位を考えたまちづくりをやっていくけれども、そこには「どうやって生きていくか」という考え方が必要です。「この地域としてはこうやっていきたい」ということで、例えば、観光であれば、夜は電車が不便という話もありましたけれども、それは我慢しても「この地域にそれ以上の魅力がある」と納得できればまた来てもらえると思います。本来はいろんなサービスがあればいいのですが、優先順位やどこまでできるかということを考えないといけないと思います。

私の仕事はホテル関係の清掃が多いのですが、県内からの方がたくさん宿泊されて、その客室清掃をしています。今、頭を悩ませているのが、仕事としてみなさん来ていただいているのですが、コロナにかかったらどうしようということをしごく意識しています。働いている方は高齢者の方が多いので、もしかかったら本当に困ります。一人罹ると濃厚接触者になって全員が休む可能性があります。そうすると、その宿泊施設の機能が麻痺します。本当に神経を使います。来ていただいた方が罹っているとも限らないし、逆に地域で罹ってそこへ持ち込むことがあるので、本当に困っています。ただ、やるべきことはきちんとやるので、それでも罹ったら仕方ないと諦めています。

まちづくりは、そういったところで、どこをどうしていくかということを考えていかないといけ

ない。この基本構想の大枠はいいと思いますが、この先の計画、実践といった細かいところでは考えていく必要があると思います。

#### 【事務局】

コロナのようなことが急に起こったときにどういった選択をするかとか、どういう方針で対応していくのかということについて、こういった機会も含めまして、住民の方のご意見も取り入れて方向性を決めていくということを念頭において進めていきたいと思っています。

#### 【谷委員】

基本目標の目標4「誰もが健やかで助け合うまちづくり」と目標3「産業が元気なまちづくり」に関する意見と感想を述べさせていただきます。私たち食生活改善推進協議会は、自分の健康の維持管理をしていくことや健康寿命を延ばすことなど、食生活の面から支えており、エコクッキングや高校生の料理教室、小学生を対象とした保護者と子の料理教室などを実施するほか、ここ数年は、企業とのつながりを持ちながら健康料理の普及を行うなど、地域に広める活動をしています。ただ、今年度は、コロナの関係で予定通りにいかず、うまくいってないところがあります。その中で、自分たちの活動の中で、地産地消として志摩の豊かな食材を利用していこうという話をしています。

基本目標の目標3の中に「豊かな食材を生み出す農林水産業」とありますが、身近な人の話を聞くと漁業、農業の担い手がいなくなっていて、昔は田植えでも手伝いあいしていたものが、機械化になって人が少なくなって、若者たちの担い手が減っている。私の家の田んぼも、頼んで人に作ってもらっているのですけれども、その人は、同じように作れない人が他にもいるので、3軒分も受けているとのことで、高齢化でだんだん移行もしていっています。この間も、田んぼの消毒をするのに、90歳過ぎの人がホースを持ってやっているという話を聞いて、若い人が「近所の人にはドローンで消毒しているよ。いくら金額でやってもらえるよ。」というようなことを言っていました。そういう若者が知りうる新しい情報が、今からやっていく農業・水産業とつながりをもって、なんとか地元の田んぼが太陽光発電や荒地にならないように、志摩市にある農業、漁業が保てるような、魅力のあるような形に進めていければと思います。

#### 【事務局】

農業、漁業の一次産業は志摩市にとって大事な部分です。しかし、担い手がいないという苦しい状況で苦勞されており。市としても担い手育成に力を入れているのですが、なかなか達成しづらい状況です。先ほどから、ITやデジタル化などの話が出ておりまして、新しい「超スマート社会」といった言葉もありますけれども、人口が減って担い手が減っていく中で、ドローンなどの新しい技術を入れて、担い手不足に対応できる考えをもっていきたいと思っています。担い手育成も平行してやっていく必要がありますが、それに追いつかないところを新たなテクノロジーを入れて補ってやっていくという視点も入れて生きたいと思っています。

#### 【齋藤会長】

ぜひ世代間交流の視点も入れていただければと思います。

#### 【濱口委員】

基本構想の素案について、ぱっと見た感じ、「自然と共生するまち」、「市民が誇りをもてるまち」

という基本理念の2つにワクワク感がないという感じを受けました。「プレーヤーは市民である」ということをみんなにわかってもらえて、愛着を持てるような基本理念になってくれるとよいかと思います。基本理念をどのように使うかわかりませんが、若者がこの2つを見て、「いいね」と思うことは無いと思います。次からのページを見ていくと、多少はわかりやすく、ところどころキャッチーな部分もあるけれども、という感じを受けました

あと、アンケートについて、私は志摩町なのですが、志摩町は軒並み結果が悪いです。「志摩市は住みやすいか」、「志摩市に住み続けたいか」とか、志摩町はどこを見ても良くないので、なぜかなと思って見ていました。見るからに店舗が閉まっている、人口が減っているというのもあるのかなと思います。志摩町が一番端っこにあるというイメージはあって、一番不便なところは浜島か志摩かという感じですが、そういった、どんどん不便になっていくところの人たちも巻き込んで、意識を向けてもらえるような総合計画になればいいなと思います。このような膨大な量のアンケートをまとめてくださった職員の方に感謝します

私は介護関係の仕事もしているのですが、何かしようとする、志摩市役所内での部署の縦割りとか、横の連携をもう少しどうにかしてほしいところがあります。総合計画を練っていく上では、部所間の交流をより活発にさせていただけますと助かります。

#### 【事務局】

基本理念については、平成28年度に策定しておりまして、「自然と共生するまち」、「市民が誇りをもてるまち」ということで、まさにそのとおりなのですが、その言葉遣いについて「もっと響くように」というご意見であったと思います。10年間の基本理念ということなのですが、市民がプレーヤーということの中で、市民に響かないと意味が無いところもありますし、検討させていただきたいと思います。

またアンケートの中で志摩町の結果が悪かったということでしたが、今後、中心部に集まってくるという状況もある中で、それでいいのかどうか。SDGsの考え方で、みなさんが暮らしやすいまちになるという視点が必要ですので、個人の方の移動を制限するわけではありませんが、大きくいうと5町の方が、それぞれ暮らしやすいまちになるという理念は持っていきたいと思います。

あと、横の連携のことですが、基本計画を立てるなかで、各部署へのヒアリングも行っていますので、そこで横の連携も呼びかけていきたいと思います。

#### 【柴原（信）委員】

基本目標を見させてもらって、大変すばらしいことだと思うのですが、目標3「産業が元気なまちづくり」の創業支援、企業誘致、6次産業化の推進を通じた雇用創出やナショナルパークについて、詳しく、具体的に説明をしてほしいです。6つの基本目標はすばらしいと思います。

#### 【齋藤会長】

具体的な施策の項目については、また次回以降に、詳しい内容について検討する機会があると思います。

#### 【事務局】

ここに記載しております内容については、昨年策定しました地方創生の第2期志摩市創生総合戦略に記載されている、創業支援、企業誘致、6次産業化、ナショナルパークを挙げさせていただ

ております。お時間もありますので、会議終了後、個別に説明させていただければと思います。

**【齋藤会長】**

本日は、貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。

複数の方から、「ワクワク感」、「将来に希望を持てる」という工夫が必要ではないかというご意見がありましたので、その点は事務局の方でご検討いただければと思います。

それと基本構想の検討について、審議会としては、概ねこの形です承したということにさせていただきたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

**【異議なしの声あり】**

**【齋藤会長】**

では、この方向で進めさせていただくということにさせていただきます。

(3) その他について、事務局から何かありますか。

**事項書 2. 議事 (3) その他**

**【事務局】**

[次回の開催日について連絡]

**【齋藤会長】**

それでは第2回の総合計画審議会を終了します。本日はありがとうございました。